

### 法政大学トレーニングセンターにおけるアスレティックトレーナー活動について：2020年 トレーナールーム活動報告

藤村, 直樹 / FUJIMURA, Naoki

---

(出版者 / Publisher)

法政大学スポーツ研究センター

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

BULLETIN OF Sports Research Center, HOSEI UNIVERSITY / 法政大学スポーツ研究センター紀要

(巻 / Volume)

39

(開始ページ / Start Page)

111

(終了ページ / End Page)

114

(発行年 / Year)

2021-03-31

(URL)

<https://doi.org/10.15002/00026206>

## 法政大学トレーニングセンターにおけるアスレティックトレーナー活動について —2020年 トレーナールーム活動報告—

### Athletic Trainer Activities in the Hosei University Athletic Facility —Report of Athletic Trainer Activities in 2020—

藤村直樹 (法政大学多摩トレーニングセンター)  
Naoki Fujimura

#### 要旨

2019年から続く取り組みとして、本年も多摩トレーニングセンターにはAT有資格者が配置された。コロナ禍の影響を受け、一時的に活動停止および利用制限などがあったものの、一定人数の体育会利用者の対応を行うことができた。今回は昨年との比較を交えつつ、利用者の対応内容や目的、その傾向などを報告するものである。

キーワード：アスレティックトレーナー、トレーニングセンター、トレーナールーム、体育会サポート  
Key words : Athletic Trainer, Athletic facility, Trainer room, Support for Athletes

#### I 緒言

本学の多摩トレーニングセンターのトレーナーにおいては、2019年4月より再度AT有資格者（並びに鍼灸あんまマッサージ指圧師国家資格保持者）を配置する運びとなっている。2020年1月からも同様のサポート体制を継続し、体育会活動支援の一助となるべく、発展的なシステム構築を目指して新年度の活動を迎えようとしていた。しかしながら、3月末よりコロナ禍の影響を受け、学内の入構制限および体育会活動の自粛要請により多摩トレーニングセンターも閉鎖された。7月より徐々に活動制限の緩和に伴い、体育会活動も再開したものの、トレーニングセンター内でのトレーニング等は禁止。不随するトレーナールームにおいても、帯同するトレーナーの処置を希望した学生のみ限定的に対応を行うという形式をとった。10月中旬より学内警戒レベルの引き下げに伴い、利用人数および利用団体を制限する形で一旦トレーニングセンターを開放したが、体育会でのクラスター発生に伴い再度活動を停止。その後、消毒および体育会内での感染拡大調査が終了した段階でトレーナールームのみの活動再開となり、2020年末までその体制は継続した。尚、利用者への対応に当たっては、消毒や換気などの衛生管理を十分に実施の上、検温および体調確認などを徹底した。

本年においては先述したような限定的なアスレティックトレーナー活動となってしまったが、その中にありながらも一定人数の体育会利用者の対応を行うことができた。以下に利用者の対応内容や目的、その傾向などを報告するものとする。

#### II 対象と方法

##### 1. 測定対象者および調査期間

対象者は、アスレティックトレーナー有資格者（兼：鍼灸

あんまマッサージ指圧師資格保有者）が在室する際に、多摩トレセントレーナールームを利用した者とし、本学に在籍する学生およびOB・OGの者も含めた。調査期間は2020年1月～2020年12月とした。

##### 2. 対応件数および処置内容分類に関して

利用者の集計に際して、対応した処置人数及び処置件数を1部位につき1件として示すとともに、以下の項目で処置した内容を分類し、示すこととした。

###### 2.1 処置目的

処置目的を、Check・Conditioning（以下Cond）・Reconditioning（以下Recond）・Acuteの4項目に分類し、その割合を示した。分類の詳細に関しては以下の通りとした。

Check…評価・状態の確認のみ

Cond…マッサージ希望や試合練習前/後の調整など、明確な主訴の無いもの

Recond…アスリハや局所テーピング対応や外傷障害に対する  
施術、局所部位の明らかな主訴のあるもの

Acute…外傷・障害に対する急性期の対応

###### 2.2 処置部位

処置部位に関しては、Condの場合、体幹・上肢・下肢・全身の4項目に分類するとともに、Recond・Check・Acuteの場合はさらに細分化し17の部位に分類を行い、件数を示した。

###### 2.3 処置内容

処置内容については、Manual Therapy（マッサージおよび

徒手療法、以下MT)・Stretch (ストレッチ、以下ST)・Exercise (運動療法やトレーニング指導および処方、以下Ex)・Taping (テーピング、以下Tape)・Acupuncture (鍼治療、以下Acu)・Icing (アイシングおよびそれに付随する処置、以下Ice)・hemostasis (止血処置、以下Hem)の7項目に分類し、その割合を示した。

### Ⅲ 結果

#### 1. 処置人数および処置件数

調査期間中のトレーナールーム利用者は延べ281名、総処置件数は315件であった。月間の利用者推移に関しては、図にて示した(図1)。併せて前年と比較した利用者数の変遷も提示するものとする(図2)。

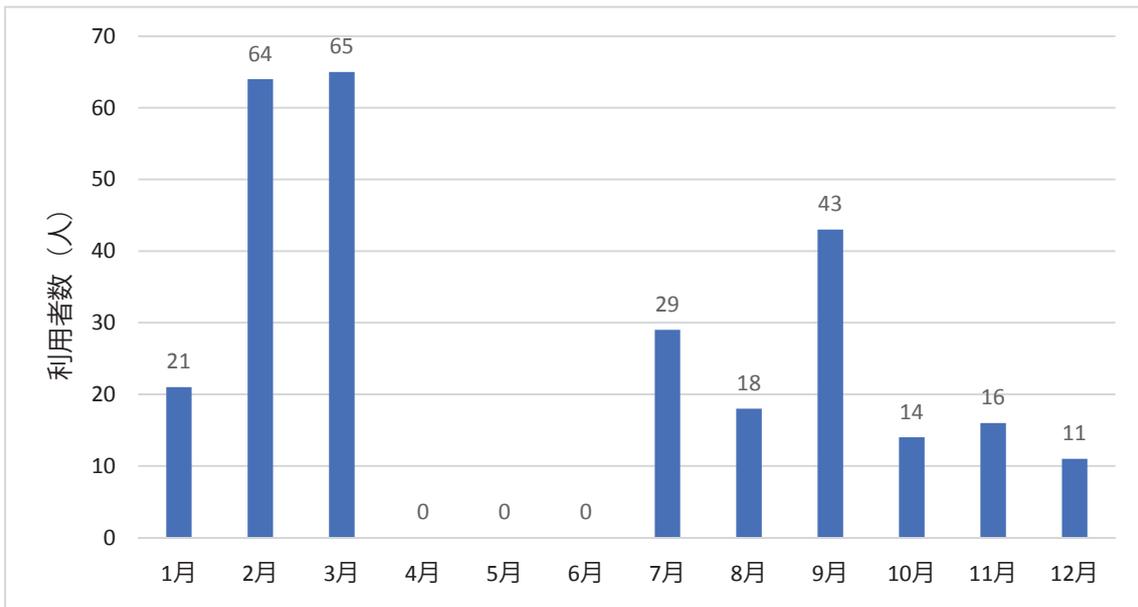


図1 トレーナールーム月間利用者数推移

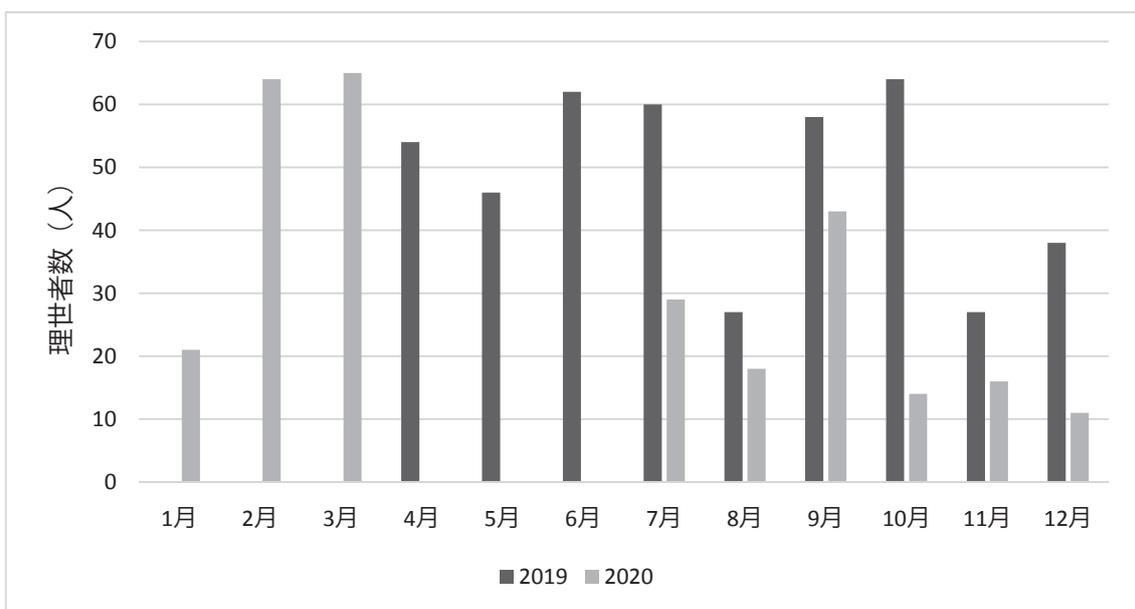


図2 トレーナールーム月間利用者数推移

### 2. 処置目的

処置目的別割合について以下の図にて示した（図3）。CondとRecondのみであり，僅かにCond処置が多かった。

### 3. 処置部位

処置部位に関してCond，Recond別に比較したものを示した。Condでは下肢の割合が最も多く，Recondにおいては大腿後面，次いで大腿後面，下腿の処置件数が多かった（図4）（図5）。

### 4. 処置内容

処置内容に関してはMTが最も多くの割合を占める形となっていた。処置の中ではExやSTも併用して行うことが多いため，次いで割合が大きい（図6）。

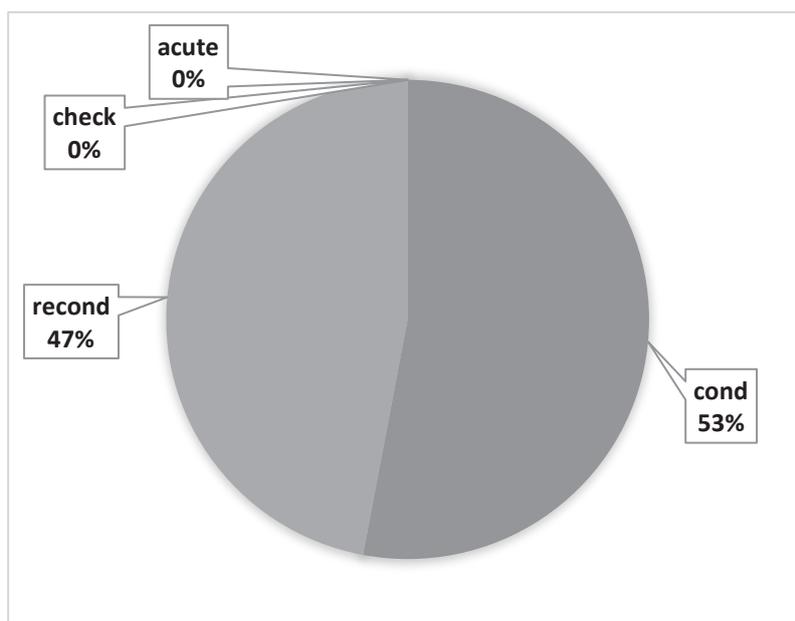


図3 処置目的割合

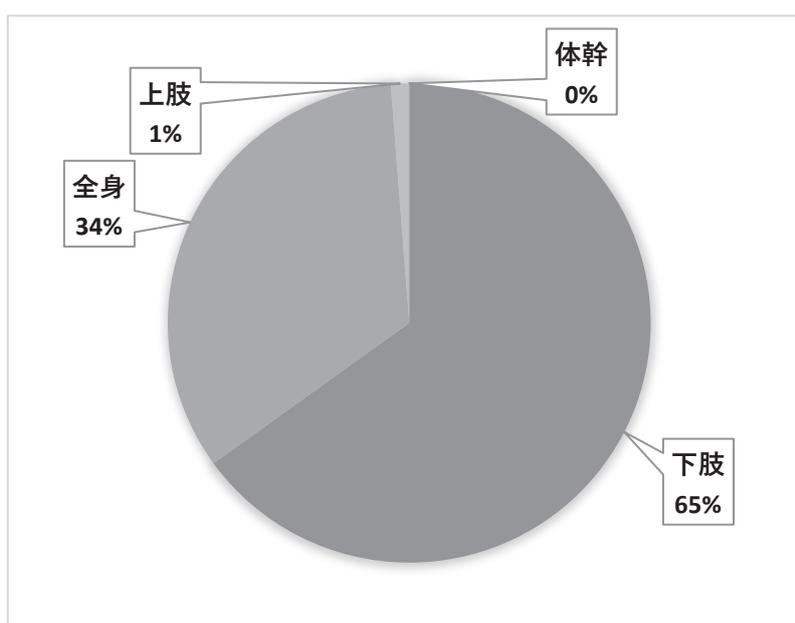


図4 コンディショニング処置部位割合

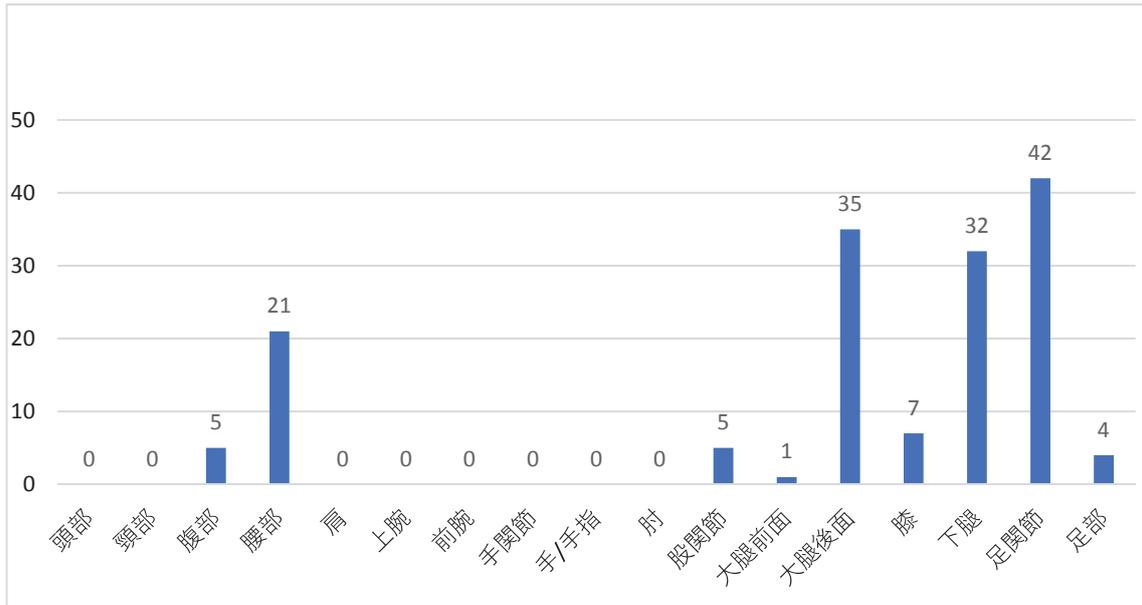


図5 リコンディショニング処置部位別件数

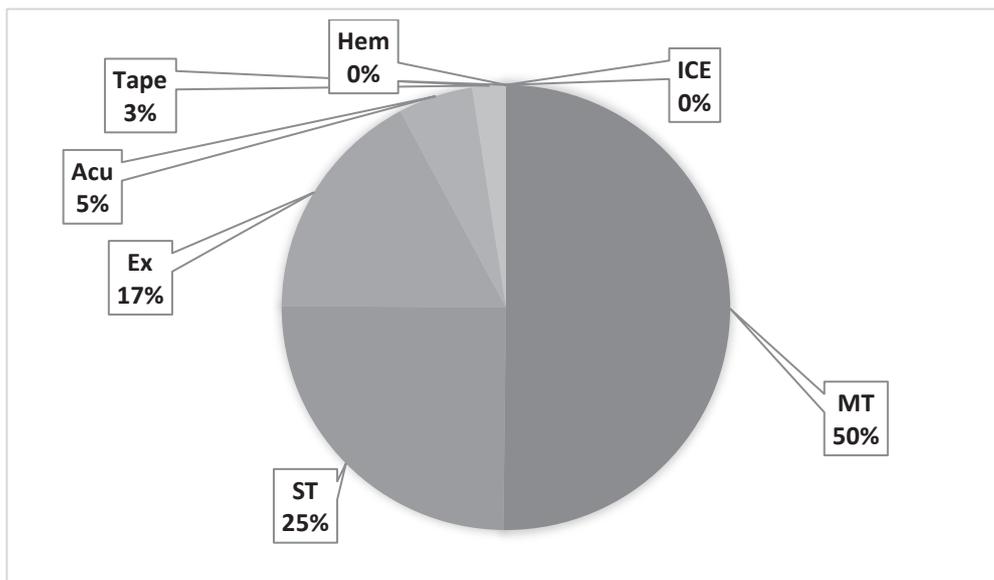


図6 処置内容割合